

OCUAC

大阪市立大学山岳会会報 No. 52

2011.6.4

目次

頁

表紙裏・ルート図

(ヨセミテ、エルキャピタン、サラテウォール登攀)

尾形 達也

ヨセミテ、エルキャピタン、サラテウォール登攀

尾形 達也 1～6

西日本の名峰

大山 四季の楽しみ方

武部 秀夫 7～10

思い出の山行

(白馬鑓、剣、穂高・涸沢)

兵頭 渉 11～13

ネパールヒマラヤ・トレッキング

(ゴーキョ・カラパタール)

福山 昇二 14～16

「トムラウシ山遭難はなぜ起きたのか」を読んで

田中 博之 17～18

総会が開催されました！

18～24

・会長ご挨拶 ・幹事長ご挨拶

・活動報告/活動予定 ・総会案内の通信欄より

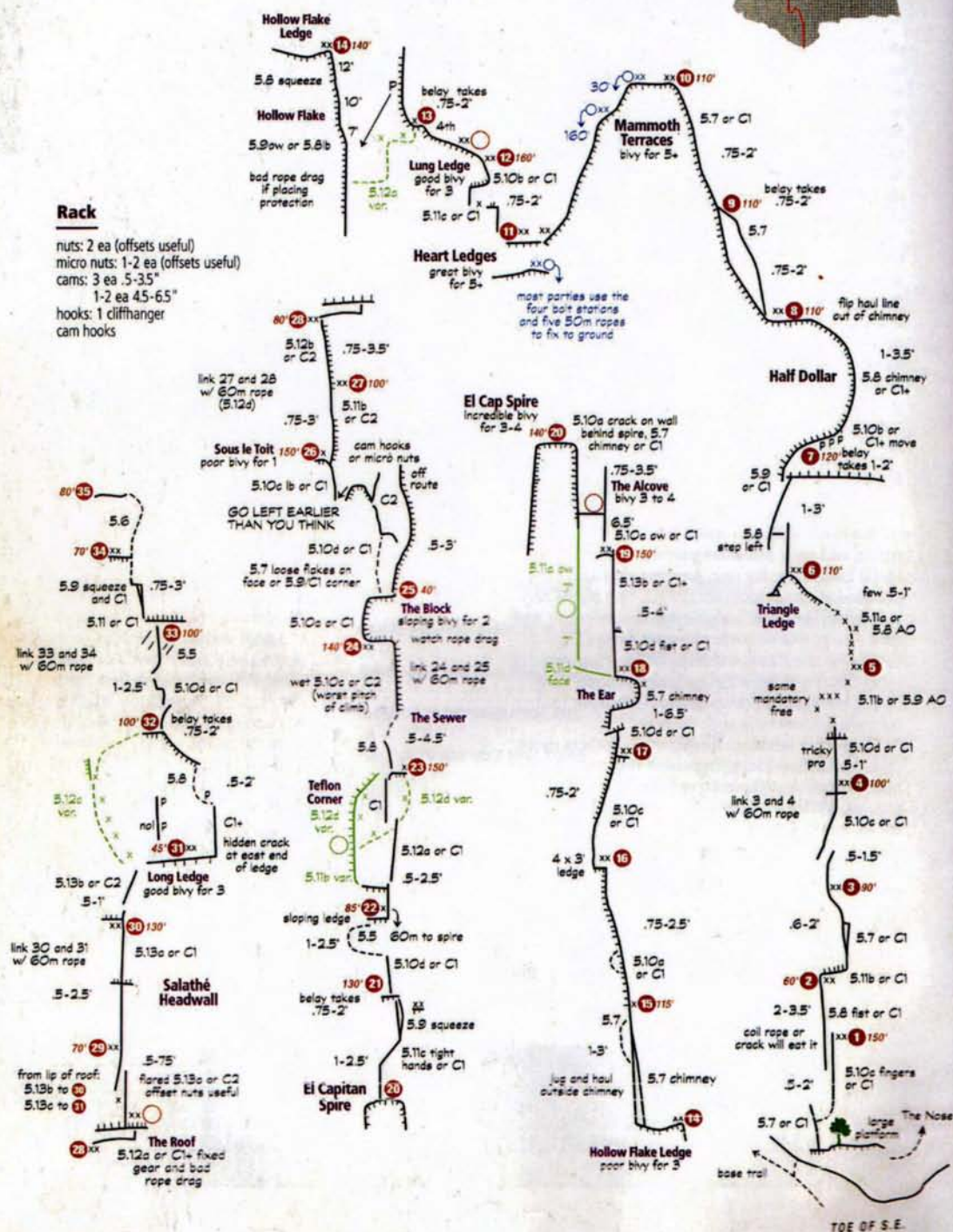
裏表紙裏・写真

(室堂乗越から剣岳遠望、霧の穂高・ジャンダルム)

兵頭 渉

VI 5.13b or 5.9 C2

nuts: 2 ea (offsets useful)
micro nuts: 1-2 ea (offsets useful)
cams: 3 ea .5-3.5"
1-2 ea 4.5-6.5"
hooks: 1 cliffhanger
cam hooks



ヨセミテ、エルキャピタン、サラテウォール登攀（2009年8月）

尾形 達也

きっかけは1冊の本だった。「SuperTopo, YosemiteBigWalls」。インターネットのサーチエンジンでたまたま見かけて、Amazonで購入した。別に登るために買った訳ではないのだが、読んでいるうちに自分にも登れそうな気がしてきた。トポのラインに想像を膨らませ、何度となく辿ってみた。イメージライミングで手に汗を滲ませた。2006年の春だった。



この年の8月、サンナビキ同人の吉田さんと最初の挑戦を計画した。ルートをサラテにしたのは、開拓のスタイルに魅力を感じたのと、エイド技術で誤魔化しようのないワイドクラックのフリーのピッチが随所にあった為である。この時は7ピッチ登って、自分たちのあまりの遅さに断念、実力不足を思い知らされた。



翌 2007 年夏は 1 ピッチも登らなかった。ヨセミテに着いたとたんに吉田さんが発熱し 3 日間寝込んでしまった。あきらめきれずに壁を触りに行ったが、取り付きでブラックベアーに遭遇し、直ちに退散。

目的のルートは登れなかったが、回復後の吉田さんといくつかの短いルートに触れそれなりに堪能した。

2008 年、吉田さんの職場環境が変わり行けなくなった。替わりに岩場で知り合った京都雪稜クラブの岡村君を誘う。岩、雪、氷と幅広く精力的に活動しているクライマーで、「いつかは行きたい。」と以前より話していた。冬の屏風も経験しており、実力的に充分と考え、なんとか口説き落としてヨセミテ行きを決意してもらった。

結果は最悪だった。初日からミス連発、予定から大幅に遅れ、しかも岡村君は脱水状態でフラフラで完全に戦意喪失。Heart ledge から退却した。

パートナーの能力を読み違え、無理なことを求めすぎたことが最大の敗因であった。

2009 年、行きたい気持ちはあったけれどパートナーが見つからない。ほとんどあきらめていた 5 月半ば、岡村君からサラテに行きたい旨メールが来た。覚悟のほどを問いただすメールを返信したが、返事が来る前から心はもう向こうに飛んでいた。この時から毎週末の名張香落溪の岩場でのトレーニングを始めた。天気にかかわらず毎週始発電車で出かけ暗くなるまで登り続けた。この時同じ岩場に来ていた仲間たちから、「鬼軍曹」というありがたくないニックネームをつけられた。

「今回で 4 回目、もう失敗できない。」「必要なことは身につけた。」覚悟と自信を胸にアメリカへ飛び立った。

8 月 8 日

伊丹から成田を経由しサンフランシスコへ。

成田を午後に出たが、時差の関係で到着は同じ日の朝であった。予約していたレンタカーを借り、その日のうちにヨセミテ入り。途中間違えて反対車線を走行してしまったため、怖い思いをした。キャンプ場泊

8 月 9 日

サラテの下部、「Heart ledge」まで登る。この日は荷揚げは無し、fix して下降するので、

身軽である。この部分は傾斜も緩くオールフリーで登る人も多い。出来るだけフリーで行こうと思っていたが、我々の能力では結局2割程度がエイドになってしまった。

日本の壁のように残置支点は無い、エイドで登る場合でもカムまたはナッツを自分でセットするのでそれなりに時間がかかる。例外として3ピッチ目にルート中唯一のボルトラダーがある、しかしボルトの頭に立っても次のボルトに届かない。ナッツキーを使いようやくボルトに届いた。初登者は身長2mあったのだろうか？

この日は予定通り「Heart ledge」まで到達。ここから70m x 3、50m x 1の計4本のロープをfixしながら下る。明るいうちに取り付きに戻った。キャンプ場泊

8月10日

今日は休養と準備に当てる。

食料と装備を補充しパッキングをする。

このようなビッグウォールを登る場合、荷物は荷揚げ専用のザック（ホールバック）に詰める。リーダーはメインロープの他に荷揚げ用のロープ（バックロープ）を引いて登り、テラスに着いたらメインロープをfixし、バックロープを使ってホールバックを引きずりあげる。セカンドはその間、支点を回収しながら、fixされたメインロープをユマールする。登る以外にもいろいろと作業があり忙しい。

8月11日

車を降りて取り付きまで通常15分だが倍以上かかった、ホールバックの重さに腰が折れそうだった。水だけで1日1人4リットルが5日分入っているのだから・・・

まずは一昨日のfixロープをユマールで登る。1ピッチごとにホールバックを引きずりあげる。自身の体重をカウンターにして小刻みに上げる。担ぐよりマシだが、やはり腰に来る。

10時にスタート地点の「Heart ledge」に到着。

気合いは充分。しかし最初のピッチでいきなり墜落。アブミに乗ったとき、スリングに巻いたテープを結び目と間違え、体重を掛けてしまったためだ。一瞬何が起こったのかわからなかったが、あまりの間抜けさに我ながらあきれてしまった。深く反省し、以後一度もフォールしなかった。

この日は第一の難関と考えていた「Hollow flake」がある。30mに渡って中間支点のない5.9のワイドクラックだ。結果は恐れるに足りずであった、いつも登っている名張のワイドクラックに比べればとても易しかった。

時間は早いがしばらく適当なテラスが無いので「Hollow flake」上のテラスでビバークする。余った時間で手持ちのロープをfixに行く。2ピッチで時間切れ。

夕食はトルティーヤと魚の缶詰、きわめて簡単。アメリカ製は口に合わなかったので缶詰は日本から持ちこんだ。

8月12日

朝食はフルーツ缶とお茶。

ロープ2本分のユマーリングからスタート。準備運動にはちょうどいい。

この日の2ピッチ目「The Ear」と名付けられたピッチ。耳の形のフレークのチムニーを登る。空中に張り出しておりものすごい高度感。この後はほぼエイドで高度をかせぎ、最後はチムニー登りで本日のビバーク地点である「Elcap Spire」に到着。「Elcap Spire」は岩壁から1m離れて立っている岩峰で、頂上は平坦で広さ8畳程度、理想的なビバーク地だ。

時間的には少なくとも1ピッチはfixするべきところだが、あまりにも疲れて動く気がしない。決断するのに30分ほどかかったが、登攀再開。このピッチ、最後のスクイズチムニーでさらに疲弊した、フラフラだ。

気にしていた水はこの日は500cc余った。高度も上がり涼しくなってきたし、不足することはないだろう。前日と同様、簡単に食事を済ませ速攻で寝る。

8月13日

トルティーヤがかじられていた。こんなところにもネズミがいるのには驚いた、普段は何を食っているのだろう。

ユマーリングを終え、エイドで2ピッチのぼした後、トポに「worst pitch」と記されていた部分に取りかかる。ルンゼ状で少し湿り気があり草も生えており、日本の岩場みたいである。フリーの部分が多く結構はかどり、特に問題はなかった。このピッチを終えると「The Block」に到着、本日のビバーク予定地である。

いつものようにfixに向かう。次のピッチはトラバース、振り子とライン取りがややこしい。

トポと壁を睨みつつ、慎重にルートを選択する。このピッチの終了点のテラスからは上部の視界が開ける。目の前に「Head wall」が広がり、気持ちが高ぶってきた。

次の凹角状はフリーで登り出し、難しくなってきたところでエイドに切り替える。途中ギアのセットが微妙な箇所がいくつかあり苦勞する。最後にルート中最大のハングを越え、70mほばいっぱい伸ばす。スリングも使い果たし、ロープが重くて難儀した。

ロープをfix後、懸垂でギアを回収しながら下降するが、5m張り出したハング下では回収の度に空中に振り子のように放り出される。地上700mの空中遊泳に思わず叫んでしまう。

この日もよく動いてへとへとだが、ゴールが見えてきたので気持ちは明るい。

8月14日

最初の難関は1ピッチ分の空中ユマール、準備運動にしてはきつすぎる。

最初のピッチは「Head wall」に走る最高に美しいクラック。エイドで登るのが申し訳ないようなクラックだが、日本人では平山ユージしかフリーで登っていない。ピッチの終わりの方ではクラックが細くなり極小サイズ(3mm!)のナッツを初めて使うが、ここの硬い岩では不安はない。70mいっぱい「Long ledge」に到着。残りは3ピッチ、ここからは岡村君にリードを任せることにした。

ホールバッグは残し、上部のfixに向かう。エイド部分は順調に高度を稼いでいたが、スクイーズチムニーで動きが止まる。気合いの雄叫びと共にロープがじりじりと動き出す。相当苦勞しているようだ、いつ吹っ飛んでくるかと身構えていたが、やがてビレー解除のコール。彼にやらせてよかった、今までほとんどフォローだったが、これで完登した際の喜びもひとしおだろう。

2ピッチのfixを終え「Long ledge」に戻る。このテラスは名前の通り細長い、7mもある。幅は50cmだが。

明日のトップアウトは確実なので水は残りを気にせず使う。またトルティーヤと缶詰も全て平らげた。

8月15日

間違いなく最後の日になるだろう。残りは1ピッチ、しかも見るからに簡単そう。ヨセミテ溪谷を挟んで対岸にそびえていた岩峰もずいぶん低くなってきた。

リードの岡村君は順調にロープを伸ばす。見上げていると気持ちが高ぶってきて涙が出そうになった。

荷揚げは傾斜が緩いのでたいへんだった。上から引き、下からも押し上げつつ2人がかりで「せえの」でタイミングを合わせて引き上げる。やがて傾斜の落ちた終了点に到着しがっちり握手。沸き上がる思いをかみしめつつ装備を片付ける。4日ぶりにハーネスをはずす、もうどこにも落ちる心配は無い。

頂上からは長いトレイルを下る。キャンプには疲れ果ててたどり着いた。

シャワーを浴び、ピザとビールで祝杯をあげた。

全身疲労困憊、残りの日々はうだうだして過ごす。岩を触り続けた指先が痛む。

最終日1人でエルキャップメドレーへ出かけた。岡村君はハーフドームにハイキングへ行った。

壁のよく見える場所で草原に座り込み、ワインをあおる。

飽きもせず1日エルキャップを眺めながら過ごす。とても幸福な時間だった。すっかり酔っぱらってからキャンプ場へ帰る。

エルキャピタンへ行こうと決めてから完登まで実に3年半もかかったが、あきらめないで本当によかった。ヨセミテにはまた行きたい。今度の目標は「Astroman」だ。



西日本の名峰 大山 四季の楽しみ方

武部 秀夫

西日本には、標高こそ高くはありませんが名峰があります。大山は中国山地で一番高い山で鳥取県の山です。剣ヶ峰 1729m、弥山 1709mの火山性の山です。山麓は西日本で一番広いブナの原生林に覆われています。また日本海に近く特に冬季は北西の季節風がまともに吹きつけ一般登山コースや北壁の各バリエーションルートは恰好のアルパインクライミングルートになります。昔は大阪から鉄道で福知山線經由山陰本線山麓の街米子まで行くのにも何時間もかかり宿泊が必ず伴う「遠い山」でしたが、現在は高速道路網の発達で、中国道經由米子道で約4時間で北面の登山基地大山寺まで入れます。日帰りも可能になりました。私は岡山市に住んでいますが2時間30分で行けます。古くから地元鳥取県はじめ中国地方の岳人のアルパインゲビートになっています。大山はまた古来より信仰の山、修験道の山としてありました。山麓には大山寺や大神山神社や僧房跡の旧跡が多くあります。地形図にも最高峰剣ヶ峰や弥山、三鈷峰、宝殊尾根、金門、文殊堂などの名も散見できます。自然豊かな歴史あるそして名前の通り大きい山「近い山」大山の魅力を私が岡山で所属していますアルパインクライマーズクラブ岡山(A C C O)の山行活動から紹介します。

積雪期(1月～3月)

この時期は私が一番ワクワクしている時期です。崩壊進行中の火山性岩盤のため無雪期では登攀できない北壁や東壁、三鈷峰北面は素晴らしいバリエーションルートになります。

1月から3月中旬までは北壁へほぼ毎週末北壁通いしています。通常北壁は最西端の八合尾根から東へ別山バットレス、弥山尾根、滝沢尾根、小屏風岩、大屏風岩、天狗沢、最東端の墓場尾根までを言います。15本ほどのルートがあります。別山バットレス左稜幻のカンテルートや大屏風岩、墓場尾根左稜、右稜がピッチ難度と長さからルート難度が高く、他のルートは雪稜中心の快適な日帰りルートになっています。多くのクライマーが集まる元谷避難小屋がベースになります。この時期には近藤邦彦プロガイドがよくお客さん連れで泊まっておられます。別山バットレス中央稜や滝沢尾根が中級上ルートで私は好きなところですが、もちろん一般登山ルートの夏道コースは好天気の日曜日は多くの中高年登山者で賑わいます。北壁登攀のギャラリーとなります。北麓には中国地方最大の大山ホワイトバレースキー場がありスキーヤーで賑わいます。静かなルートもあります。ラッセルを強いられませんが北尾根や七合尾根、宝殊尾根(あるいは主稜縦走後)～ユートピア避難小屋～親指ピーク～大休峠～甲ヶ山、船上山への大山北方稜線

はラッセル雪稜ありのテント泊で3～4日はかかる好ルートです。東壁へは3月に入るといいでしょう。ここにも壁沢右、左稜、キリン尾根、槍尾根、東尾根など雪稜主体の長いバリエーションルートで楽しめます。また振子沢は東面の滑らかな谷で山スキーを楽しめます。アプローチは岡山県側に近い奥大山スキー場駐車場から鳥越峠経由です。多くの山スキーヤーやテレマーカーが入山します。南壁は冬季閉鎖される環状道路がアプローチとして使えなくなりほとんど入山者はありません。南壁の各稜を今後ACCで地域研究していくつもりです。

無雪期(4月～11月初旬)

特に初夏の頃はブナの新緑と花の山になります。5月から初夏には一般登山道で大山固有種のダイセンキスミレが見られます。また盛夏の7月下旬から8月上旬には青紫色の小花が密生した花穂をもつクガイソウが特に弥山頂上台地や夏道コース8合目付近やユートピア避難小屋と振子沢源頭部に群生しています。ユートピア避難小屋付近はシモツケソウなどと混合して可憐な夏のひと時の感動を与えてくれます。梅雨の頃はしっとりしたブナ林の中を歩くと本当に心が癒されます。特に大山東部や烏ヶ山あたりの原生林は気持ちよいものです。夏は甲川(きのえがわ)での沢登りが楽しめます。廊下帯が3ヶ所あります。大山の北にある鶯橋から入渓します。甲ヶ山の西面の谷で源頭部は大休峠となります。日本百名谷の中に選定されています泳ぎ沢です。天候が悪くなるとすぐに増水しやすい沢ですので入渓される場合には天候に気をつけてください。よく事故が発生しています。9月に入ると「きのこ」のシーズンの大休峠の東側には天然のナメコが採れます。大休峠の避難小屋は15名ほど収容規模で快適です。ここに泊まりナメコ汁や食べられるきのこ料理を肴に一杯は最高です。大山の紅葉は10月下旬が最盛期です。ブナの黄葉、ミズナラの紅葉と山が一番彩られます。この時期は東の一向平(いっこんがなる)から入山し地獄谷を沢歩きし駒鳥避難小屋か沢中テント泊で振子沢をつめ振子山から野田ヶ山、大休峠経由で一向平へラウンドする沢歩きと縦走をミックスした紅葉回廊トレッキングが素晴らしいです。なお、無雪期は主稜縦走部が崩壊激しく危険な状態ですので主稜縦走は止めたほうがよいです。

新雪期(11月中旬～12月)

この時期が一番静かになります。ゆっくりと日本海海岸から船上山～甲ヶ山～矢筈ヶ山～大休峠～野田ヶ山～振子山～ユートピア避難小屋～(剣ヶ峰往復)～宝殊尾根～大山寺への2泊3日のSea to Summitがよいかなと思います。荷を担いで歩くという山の原点が静かに楽しめます。一般の登山道歩きですが人には会わないでしょう。12月中旬後には本格的な積雪期のはじまりとなります。この時期元谷にテントを張り積雪期登山技術訓練山行をしています。1月からのワクワクシーズンに備えます。

最後にエコ活動

大山へは多くの登山者が四季を通じて登りに来ます。ほとんどの方は夏道コースを利用します。このコースには途中には6合目避難小屋があるとはいえトイレがありません。しかしながら弥山頂上避難小屋（通年開業）には汲み溜め四季のトイレがあり、登山者が利用されています。このトイレ管理の一環で毎年9月の最終週末にトイレ汚泥荷降ろし活動がおこなわれています。昨年は9月26日にありました。登山者のボランティア活動で何と、0.6トンのし尿汚泥が下ろされました。300名の登山者の協力により、頂上避難小屋前で一人あたり2リットル入りの容器を渡されそれを麓の博労座駐車場まで下ろします。私の所属会も活動に参加しています。遊ばせていただいている大山への感謝。

参考ホームページとしては「大山イラスト概念図」で検索しますと4枚の概念図が見れます。

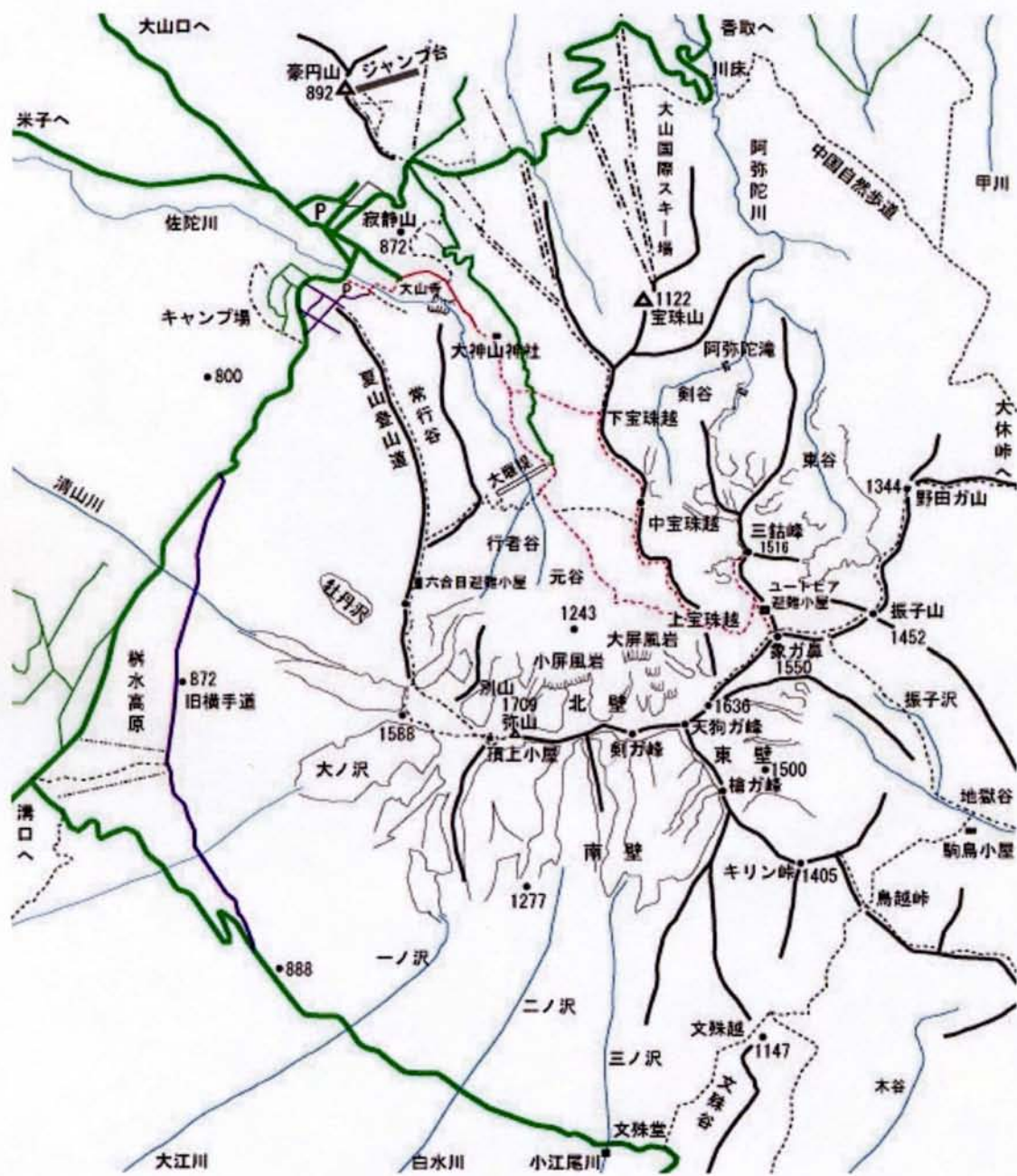
<参考資料> 「大山での積雪期山岳遭難事故」

大山での積雪期山岳遭難事故			資料作成→アルパインクライマーズクラブ岡山 武部
年	月日	山岳会や年齢	状況
1958	1月2日	福岡さくら山岳会	1名夏道別山付近
1959	1月8日	米子南高校山岳部	4名死亡、主稜天狗ヶ峰付近で疲労凍死
1961	1月3日	福岡八幡岳人社	北壁屏風岩、滑落3名死亡
1962	1月2日	福岡カモシカ登高会	上宝珠越えにて雪崩、3名パーティーで1名死亡
1962	1月2日	救助隊	元谷にて上記パーティー救助のため登山中の二重遭難。雪崩で31名中30名埋没し30名負傷
1964	2月3日	山口県光製鉄所山岳部	3名にて中ノ沢で行方不明
1965	12月31日	玉野山の会	槍尾根キリン峠手前90m新雪表層雪崩で3名中1名死亡
1967	1月8日	福岡八女山岳会	3名別山沢で雪崩3名死亡
1970	1月29日	電々倉敷	弥山頂上下300mで疲労凍死で3名死亡
1972	2月11日	四国クライマーズクラブ	主稜中ノ沢横線付近で新雪表層雪崩、6名中1名埋没し死亡
1972	2月11日	四国クライマーズクラブ	主稜滝沢横線付近で新雪表層雪崩、5名中5名埋没し2名死亡、2名負傷
1993	12月26日	福山山岳会	北壁天狗沢にて4名滑落し死亡
1994	2月12日	福岡岳友会	場所未定 雪崩で1名死亡
1998	2月22日	広島山の会	北壁天狗沢にて滑落、2名死亡
1999	3月6日	兵庫県の方	単独にて夏道コースで滑落死亡
2001	1月21日		滑落1名
2002	3月9日	兵庫県の方	夏道コース七合目で転落死亡
2008	1月	松江アルパインクラブ	道迷いし船上山歸還しの滝に至り1名水死、2名軽傷
2008	2月	50歳代の男性	道迷い、夏道コース9合目にて 救出
2008	3月	60歳台	キリン峠付近にて滑落し骨折
2008	12月	30歳台	弥山付近から滑落
2009	3月	60歳台	弥山沢の200m滑落し死亡
2009	12月	70歳台	夏道コース吹雪により死亡
2010	1月	30歳台	吹雪により下山下降困難、救助

資料→登山死亡遭難事故事例集2010年版 山森欣一著編 2010年7月8日刊

資料→京都大学山岳部嶺々岳遭難報告巻末添付の遭難一覧表 京都大学山岳部1974年10月刊
鳥取県警大山遭難データ、県警ホームページから

[大山登山地図]



思い出の山行
(2010年8月～10月)

兵頭 渉

白馬鑓温泉（8月28日、29日）

酷暑の下界を離れて、雲上の露天温泉へ。一泊二日で白馬鑓温泉～白馬鑓ヶ岳に行きました。土曜早暁、猿倉到着、シーズンのピークを越えたためか駐車場は車もまばら、駐車場の隅っこにテントを張り仮眠。ひんやりした朝の空気に目覚め、コンビニで買ったパン、握り飯を食べてイザ出発。

樹林帯を抜け、生い茂る夏草の中、行き交う登山者も少なく静かな山道を小日向のコルを目指してひたすら歩く。今日は荷物が重い。同行のKさん、Yさんは足取り軽く遙か先を行っている。沢の水で喉を潤し、滴る汗を払いながらピッチを上げる、事もままならず、コルの先で待ってもらった二人に合流。杓子沢の雪溪を吹き抜ける風に涼を取り、鑓温泉テントサイトへ最後の踏み張り！！テント設営もそこそこに露天風呂へジャブン！！極楽である！天国である！ビールが美味しい！



ゆっくりと夕食を済ませ、足湯などを楽しむ。露天風呂では浴衣を着た妙齡のモデル嬢が風呂の縁でポーズを取りカメラマンが盛んにシャッターを切っている。撮影会ではなく雑誌の企画用とのこと。明日の白馬鑓ヶ岳ハイキングを期して就寝。

ランチセットを持って白馬鑓へ。お花畑を抜けて、雪溪、山肌の眺めを楽しみながら好調に上る。稜線手前でYさんの登山靴のソールがパカパカと音を立て踵が剥がれ始めているのを発見！Yさんが持っていたスベアの靴紐で応急処置を施して、雪溪で大休止、本日は此所までとした。テントを畳んで下山開始、途中でYさんの残りの靴底も剥がれ始めた。ほぼ同じ時期に靴底が剥がれるという事象に製造品質の精緻さを感じたのは穿ち過ぎだろうか？

剣岳（9月23日～26日）

昨日からの雨が止む気配もなく降り続けている。一番のケーブル、バスで室堂へ。ホテル立山の喫茶店でコーヒーを飲みながら小一時間雨脚の様子見をするも変わらず。このままズルズルとこのホテルに泊まることにならない様、意を決し雨具を整え出発、別山乗越・剣御前小屋までノンストップで行く。汗と雨で全身ずぶ濡れで小屋を覗くと先行していたKさん、Yさんが待っていてくれた。小降りになるも降りしきる雨の中剣沢まで一気に下る。テント場には二張りのテントがあるだけ、適当なところに急ぎテントを設営し濡れた衣類を着替えてホット一息、ウトウトし始める。テントを打つ雨粒の音、時折横殴りの風、テントの中に雨が降る??横からでなく上から降ってくる??フライシートの防水力が落ちている!!フライシートと本体の間にグランドシートを挟んで防水対策を早く!一張羅を脱ぎ捨ててパンーで冷たく吹き降るテント外へ、イヤー冷たい!寒い!指がかじかむ!作業は3分程で完了したが体は芯から冷え切ってしまった。熱燗が欲しいところだがこの雨の中テント場のすぐ横に移設された剣沢小屋へ行くのもおっくうでパス。夕方までにテントは10張り位となった。

星は見えないが雨のあがった早朝、ヘッドランプを付けて出発。本日剣山頂一番乗り?違います、一服剣付近に先行者のランプの明かり、早い人がいるものだと感心する。ステンレス製のアンカー、鎖、梯子で整備された別山尾根の夏道をヘッドランプを頼りに黙々と登る。映画の影響?百名山?登山道は良く整備され、ステンレス板の案内板はまるで都会の案内標識のようだ。



途中で先行者を追い越し剣岳山頂へ。曇り空ながら白山、白馬、槍穂高、薬師、まで見渡せる。北方稜線へ向かう中高年者のガイド登山組、途中で追い越した舞鶴の単独行の青年（10月の涸沢で再会）らと挨拶を交わしテント場へ戻る。

青空が広がり始めた別山乗越を越え、新室堂乗越にザックをデポ。昼飯、飲み物を持って、深まる秋の気配を楽しみながら奥大日へ向かう。西面から剣岳を仰ぎ見るのを楽しみにしていたが、進むにつれ霧が剣岳を覆い雄姿は一瞬。今日は雷鳥沢でテント泊、雷鳥沢ヒュッテの露天温泉は地獄谷から引き込んだ湯で粘土を含んだ強い硫黄泉、Yさんはこのお湯で顔を洗ったとの事、翌日顔が腫れていた!。

最終日、弥陀ヶ原付近から見る剣立山連峰は真っ青な空を背景に輝いていた。

穂高・涸沢（10月9日～11日）

Kさん、Yさん、Kちゃん、O夫妻、Y君、N君、私、8名は雨の深夜、沢渡の駐車場に集合。車中と足湯場に分かれ私は足湯に浸かりながら仮眠。雨が止む気配無く、近くで止宿する意見を押し切って涸沢目指し出発。傘をさしたりカッパを着たり思い思いの格好で明神・徳沢・横尾を過ぎ、滝の掛かる屏風岩を横目に、見事に紅葉したナナカマドのトンネルを抜け涸沢へ。降りしきる雨の中、Kさん、Yさん、私で共同購入したテントを初めて設営。素晴らしい居住性到大満足、Yさん手作りのディナーで夕食を愉しんだ。このころ隣のテントでは悲惨な夜が始まっていた。雨音で悲鳴も呼びかけも届かずその事を知ったのは翌朝の事であった。

青空が広がる奥穂へ、秋色満艦飾のカールからザイテングラートを6人めいめいのペースで登る。高所恐怖症のFさん、バランス不調のN君（昨夜はバーナーが使えず水と少々物を口にただけで濡れた寒い一夜を送ったとのこと）をいよいよと吹き込んで奥穂高山頂。霧で周囲は何も見えず。ヘリの音に耳を澄ませ、目を凝らした瞬間！ジャンダルム、西穂稜線が姿を現す、思わず歓声。夜はYさんが準備したチーズフォンジュに舌鼓、Oさんがつり上げた鯛の干物で、我がグループ8名に剣岳山頂で挨拶を交わした舞鶴のO青年も加わり宴会が始まる！！明日は早起きして北穂高往復～下山の予定なので早めに就寝、とは行かなかった。

北穂高小屋のデッキは所々氷が張っている。見事な秋晴れの朝、それぞれが登った山を見定めて満足そうだ。来年の山旅に話が弾む。10年振りと言われる見事な紅葉の涸沢を振り返り、振り返り、上高地最終バスに向けて帰路を急いだ。



ネパールヒマラヤ・トレッキング
(ゴーキョ・カラパタール)

福山 昇二

期 間 : 2010年12月6日～12月23日

メンバー: 福山、他1名

定年になったらヒマラヤの山々、特に8千メートル峰の山々を見てみたいという願望を持っていました。今回はチョーオユー、エベレスト、ローツェを見てきました。

12月6日 はれ

ルクラ 9:15～14:30 バクディン

カトマンズから飛行機でルクラへ。ルクラからシェルパ、ポーターと合流。ルクラの町外れのシェルパの家で昼食、荷物の梱包作業をし、バクディンへ。

12月7日 はれ

出発 8:10～10:30 昼食 12:20～15:15 ナムチェ

エベレスト街道のロッジの多さにはびっくりしました。30年前とは大違いです。石積みのりっぱなロッジがたくさんあります。ナムチェには水力発電により電気が供給されていました。

12月8日 はれ 高度順化

高度順化のため、エベレスト・ビューホテル(3,880m)に行く。ここからエベレストが遠望できる。お茶を飲み、写真撮影。

12月9日 はれ

出発 8:15～10:10 昼食 12:15～14:50 ポルツェタンガ(3,620m)

ナムチェからタムセルク、アマダブラム、タウチェ、その後ろに大きなエベレストを見ながらトラバース道を歩き、少し下ってエベレスト街道と別れゴーキョ・トレックコースに入る。トレッカーは少なくなる。

12月10日 はれ

出発 8:15～10:15 昼食(ドーレ、4,110m) 12:15～14:50 マッチャルモ(4,410m)

ゆっくりとした登りで高度を上げマッチャルモへ。途中で2カ月前に行ったマカルーが見える。陽が陰ると寒い。

12月11日 はれ

出発 8:05～12:00 ゴーキョ(4,790m.)

ゴーキョに至る手前に水鳥がいる美しい湖がある。ゴーキョにはたくさんのロッジがある。正面に8千メートルのチョーオユーが見える。SpO₂(血中酸素濃度)が72で相棒のTさんは64。高度の影響がでていて息苦しく食欲が少し落ちた以外は特に障害はない。

12月12日 はれ

出発 8:30～11:10 ゴーキョ・リ(Gokyo Ri 5,357m) 11:20～12:15 ゴーキョ

シェルパ2人と共に出発。頂上にはタルチョーがはためき360度の展望。8,000m 峰は左からチョーオユー、エベレスト、ローツェ、マカルーが見える。すばらしいパノラマである。しばらくの間、遅れているTさんを待っていたが、風がでてきて寒いので先に下山。途中で登

ってくるシェルパと T さんに会う。T さんもガンバッテ登頂。かなり疲れている。

夕食前、SpO₂(血中酸素濃度)は 80、T さんは 62。マカルーでの高度順応が効いているのかゆっくり歩けばさほどしんどくはない。

12 月 13 日 はれ

出発 8:10~10:40 Dragnag(4,700m)

ゴジュンバ氷河を横断して Dragnag に到着。明日のチョラパス越えに備えて休養。

12 月 14 日 はれ

出発 6:20~チョラパス(Cho La Pass 5,368m)~14:05 Dzonglha(4,830m)

今日の行程は長いので 5 時に起床し、早朝に出発。始めはゆるい登りで谷を詰め、右側の岩壁に向かってガラ場を登る。上部の急な登りで T さんの足が止まる。先に荷揚げしたポーターが降りてきて、T さんを交代で担ぎあげコルに到着。コルから急な岩場をくだると平らな雪面となり、やがてトラパース気味に下るところでアイゼンを付ける。10 分ほど歩くと雪がなくなる。急なくだりの後、平地となり、1 軒のロッジがある Dragnag でテント地を張る。

12 月 15 日 はれ

出発 9:00~12:05 ロブジェ(Lobuche 4,910m)

ほぼ凍った Chola Tsho(湖)を右に見ながらトラパース道を行き、エベレスト街道に合流し、クーンブ氷河右岸のロブジェへ。

12 月 16 日 はれ 休養日。

5,000m 前後での行動が続いているので休養とする。陽が陰ると大変寒い。T さんもかなり元気になった。

12 月 17 日 はれ

出発 8:50~11:10 ゴラクシェブ(Gorak Shep 5,140m)

クーンブ氷河のモレーンを登り下りして数軒のりっぱなロッジのあるゴラクシェブへ。クリスマス、正月前でトレッカーはほとんどいない。あまりに寒いのでロッジ泊まりにする。フトンがあり、食事はストーブのある部屋で快適であった。

12 月 18 日 はれ 午後から風強し。

出発 9:15~10:55 カラパタール(5,550m)11:05~11:50 ゴラクシェブ

クーンブ氷河の右岸の小山がエベレスト展望台のカラパタールである。ゆるい登りが続き小山を越えると急な岩道となりチョルテンがはためく頂上となる。風が強く、兎に角、寒い展望は素晴らしい。プモリ、エベレスト南壁が良く見える。

12 月 19 日 はれ時々くもり 風強し。

出発 8:15~10:20 ロブジェ~11:15 Duso 12:45~ペリチェ~15:20 ショマレ(Shomare 4,010m)。

今日はエベレスト BC まで行って、ロブジェに宿泊する予定であったが、風が強く、T さんも疲れ気味なので一気にショマレまで 1,000m 高度を下げる。

12 月 20 日 はれ

出発 8:30~10:45 タンボチェ 11:00~11:50 プンギ・タンガ 13:30~14:10
レウスヤサ(Leushyasa 3,400m)。

タンボチェの登りは長かったが、ここからのアマダブラムの眺めは素晴らしい。30年前に来た時に見たゴンバは消失して立派になり、大きなロッジが建っていた。

タンボチェを一気に下り、プンギ・タンガで宿泊する予定であったが、料金が高く、自炊をきらっているようなので高台のレウスヤサに宿泊する。ここはアマダブラム、タムセルクが良く見える。

12月21日 はれ 出発 8:45~10:50 ナムチェ 12:30~14:40 モンジュ

12月22日 はれ 出発 8:30~11:15 タドコシ 12:50~15:00 ルクラ

12月23日 はれ時々くもり ルクラ~飛行機~カトマンズ

テンバの出迎えを受け、チベットゲストハウスへ。久しぶりに風呂に入る。

今回のトレッキングはチョラパス峠越えがちょっと歩きづらかった以外はよく歩かれた道で、8,000m 峰の連なる山々の景色はすばらしかった。ただし、初冬の高地での宿泊は寒かった。



ドゥードゥー・ポカリ(4,750m)



チョラパス峠(5,368m)



カラ・パタール頂上(5,545m)



クーンブ氷河とエベレスト(8,848m)

「トムラウシ山遭難はなぜ起きたのか」を読んで

(羽根田 治ほか著。山と溪谷社刊)

田中 博之

15名のツアー登山客と3名のガイドによる夏の旭岳からトムラウシへの縦走ツアー登山で風雨に見舞われ9名が凍死、つまり低体温症で死亡した。1.2章ではその概要と生存者へのインタビューで遭難の実態を解明しようとする。3章は気象について。4章は遭難者の死因ないしは生存者も程度の差はあれ低体温症という事態に陥っていたことについての解説。5章は低体温症をおこす原因についての運動生理学からの解説。6章はツアー登山に対する提言という構成になっている。

夏でも風雨に曝されて凍死するという事実は、山に行く者にとっては常識です。ただ死に至るまでには過程があり、軽症期に低体温症に気付く必要があります。初期にはばてているのと同様の症状ですが、通常は低体温症では震えを伴う点が異なるようです。つまり震えを伴った疲労感には要注意で、その時点で濡れているものを着替えるとか、上衣を着るとか、ビバークするとかの対処が必要ということです。

ただ思うに、低体温症は医学的な治療の対象というよりは、まず予防の対象と言えます。まずは悪天候の行動を避けることが基本でしょう。ついで濡れないようにすること、さらに濡れても寒くないような工夫をすること、被服の着脱をまめにするなど等に尽きます。被服の着脱を容易ならしめるには、下着のまま行動できるような格好のよい速乾性の下着を採用することが最重要だと思います。昔の下着ではそれだけで行動することは不可能です。ズボン下をはくと行動中に脱ぐことはとても難しくズボンを脱いでズボン下だけで行動するなんてできませんよねー厚さを我慢して汗をかき、稜線で風が強くなると冷えてしまい、低体温症になるわけです。CX-WとかSkinsとかの下着はそのままでもあまり違和感がないようです。短パンを上に履くのが普通のようなですけど。高価で実はぼくは持ってないんですけど、低体温症対策を考える上ではぜひ採用すべき逸品ではないでしょうか。

さて、ぼく自身は低体温症よりもツアー登山のあり方に強い関心を持ちました。実はかねてより素人さんを山に連れて行くという無料のツアー登山まがいのことをしているのです。参加者は通常のツアー登山参加者よりもはるかに低レベルで、ツアー登山では客は山に「連れていってもらおう」という意識の人が多くと本書にありますけど、それでも「どの山に行くか」は自分で決めないとツアーに申し込めない。わが無料ツアー（batebateと称します）はどの山に行くかさえ決めてあげないといけない。山に行く資格など全くない人を相手に、山に連れて行ってあげようなどとバカなことをしているわけです。要するに歳を取ってきて、自分の山の目標がなくなってきた、あるいは目標とする山に行くだけの技量や体力、気力がなくなってきたということでしょう。素人さんを山に連れて行くと、景観や花などに予想以上の大感激をしてくれる、そのおもしろさ。人の歓ぶのを見て、自らの歓びとするなどというのは爺の楽しみ以外のなにものでもないとは思いますが、爺になってきた証拠ですね。

ところでわがbatebateは、過去に2度事故を経験しています。どちらも足関節骨折。どちらも降雨後で滑りやすくなっているとはいえ、ぼくにすればなんの問題もなさそうな普通の登山道でのslipです。1例目はぼくが担いでおろし、2例目はヘリを使いましたが、まあ完全followで

手術まで面倒をみました。

このトムラウシ山の遭難は悪天候なのにヒサゴ沼避難小屋を出発してしまったことが原因と
言えばそれまでですが、北海道という遠くまで来て予定通りに下山できないことが、それがツア
ーであるという点で金銭が絡む煩わしさが、出発を強行させたことは否めないでしょう。しかし、
わが batebate も現役の病院関係者たちである以上、予定通りに下山できないことは、金銭が絡
むほどには深刻でないにせよ、原則的には許されにくい事態でしょう。まあ退路のないような所
には行かないつもりですが、たとえば、以前は白馬岳に行きました。もし白馬山荘で猛烈な悪天
候に捕まれば、大雪渓を下るしかないですけど、果たして可能か。素人集団では大いに疑問です。

この本からの教訓は無料の素人ツアー登山などというバカなことは早くやめろと言うことな
のかなあ、でも爺となって山を知らない人たちに山のよさを教えてあげたいなどという殊勝な気
持ちもあるのです。

総会が開催されました！

2011年4月2日

於：大阪弥生会館

今年も28名の出席の下、総会が開催されました。廣谷会長の挨拶および山田幹事長の総括報
告があり、兵頭幹事の昨年度活動報告および今年度活動予定や上田幹事の会計報告、中嶋幹事の
「ヒュッテ雪線」関係報告等がなされました（会計報告については、別紙を参照ください）。

また、役員人事については、総務幹事（I.T 担当）の兵頭幹事が企画運営幹事兼任となりました。

なお、今春に予定されていた「グルカルポ・リ登山計画」は3月発生の東日本大震災以降の諸
般の事情により、今秋に順延するとの報告がありました。

総会に引き続いての記念講演は、当会の和田城志氏に「剣沢幻視行」と題して話していただき
ました。記念講演の後は懇親会となり、楽しいひとときを過ごして散会いたしました。

会長ご挨拶

廣谷 光一郎

東日本のこの度の大地震で亡くなられた2万数千名の方々のご冥福をお祈りし、被災者の方々には心よりお見舞い申し上げます。幸い当山岳会会員及びそのご家族関係者には直接的被害が及ばなかったと聞き及んでいます。

さて、当山岳会のこの一年を振り返りますと、昨年4月には川勝前会長や伴団長のリードの下でランタン・リルン第一次隊遭難50年目の追悼団の結成が行われました。そして命日の5月11日にはランタン村の慰霊碑前に最長老の池永名誉顧問以下28名が結集し、澤田導師の読経の下、亡くなった森本さん、健治さん、ギャルツェンを慰霊し往時を偲ぶ事が出来ました。この命日を挟んだ約一ヶ月間には、参加者がA,B,Cの三隊に分かれ、ランタン谷周辺の山域にトレッキング活動を行いました。皆様の団結した行動で全員無事に本行事を終えることが出来た事に感謝致します。

この時期ランタン谷上部のモリモト・ピークの再登を狙ったパーティー・メンバーの間に、「この大きく美しいランタン谷を取り巻く山々に長期間の取組みを行い、出来るだけ多くの峰々を登りたい」、との思いが生まれました。ランタン・プロジェクトと名付けたこのグループの登山形態は、当会会員に留まらず関西とそれ以西の地域の岳人による多様な登山隊が、多様な登り方でランタン周辺の18座を数年間で、というもので、今後の活動に大いに期待を寄せており、当会も側面から出来るだけのサポートをしてゆきたいと考えています。

6月には50年忌の帰国報告会が持たれてと、年度の前半は行事が続きましたが、9月末まで続いた猛暑の所為もあり、後半の活動は停滞気味に終わりました。

猛暑の反動もあってか、昨冬は久々に厳冬期間が長く、各地に豊富な降雪をもたらしました。北海道や信州から会員のスキー便りがしきりに届きました。この雪量は残雪期の登山の楽しみを倍加してくれるものと歓迎していましたが、大地震によって少し出鼻をくじかれた感があります。

4月から新しい年度が始まりました。今年は当会創立90周年に当たりますので昨年の総会で今秋にはその祝賀会の開催をと、表明しております。記念祝賀会開催につき、幹事会で慎重にご検討願ひ、充分な盛り上がりに乗ってこれを取り行えるよう努めて参りたいと思っております。

幹事長ご挨拶

山田 裕敏

皆様こんにちは、昨年から幹事長を務めています山田です。

この一年を振り返りますと、経過としましては先ほどの廣谷会長の挨拶で触れられた通りですが、全般的には会員の高齢化や特定会員の定例的活動に終始するというこの所の傾向から大きくは抜け出すことはできませんでした。

来る一年の抱負は、となりますと、昨年8月に立ちあがったランタン・プロジェクトの動きに尽きると思います。こちらの方は伴さんから別途発表がありますので、そちらをご注目下さい。このプロジェクトの個別案件に対する当会のサポートに関しましては今幹事会で検討中ですが、当面は参加者の自費ベースでの遠征となります。

さて、今年は当会創立90周年に当たります。この秋にはランタン・プロジェクトの実質第一/二回目の登山報告会を兼ねた90周年祝賀会の催しを予定しています。さらにこの時期に合わせて雪線第23号——創立90周年号——の発行に取り組む事いたします。内容は雪線創刊号から最終22号までの紹介と、戦前の方々の記録の再録や会員の他誌への寄稿文の再録、数度に亘る戦後の海外遠征の記録の取りまとめ等ですが、それに加えて、会員全員に「山登りと吾が人生」とか或いは自由題で文章をお寄せ頂くことで皆様が創立90周年行事に参加される気持ちを共有して頂けるような企画としたいと考えています。

こちらの方は近々願の文章を送りますので、その節は宜しくご協力方お願い申し上げます。紙面が盛りだくさんになりますれば、以前のように末尾に企業広告などをお願いして費用の捻出に当らせて貰うことなども考えていますので、こちらの方も宜しく願いしたいと思っています。

現役の状況は、まさに最小限の部員数の下、かろうじて命脈を保っている有様です。今春には一人の卒業者が出ましたので、当会は増員となりましたが、現役の方でその穴埋めが出来ますよう、関係者に特段のご尽力をお願いしている次第です。

2010年度活動報告

実施月	行 き 先 等	参 加 者
4/1～4/4	ネパール・トレック雪上訓練 於 空木岳	伴、佐々木、他
4/18	ランタン・トレック足慣らし 於 比良山	伴、島川、宗実、他
4/27～5/27	ランタン碑50回忌 墓参行 ツエリコ・リ、ヤラピーク、ナヤカンガ登山 ランタン谷上部トレッキング ラシュワ	池永名誉顧問、他28名
6/23	墓参団 打ち上げ晩餐会	池永名誉顧問、他
6/6	富士山スキー	片岡、田中、他
6/13	富士山登山	伴、澤井、稲垣夫妻、兵頭
6/23～6/26	ベテガリ岳、アボイ岳	澤井、他
7/17～7/20	駒ヶ根山荘 草刈 囲碁・ゴルフ	雪線運営委員会協賛
7/18	恵那山	上堂、吉村、兵頭
8/24	飯豊山(百名山達成!)	福山
7/19～7/20	仙丈ヶ岳・三軒岩小舎沢	伴、兵頭
8/25～9/9	ツールドモンブラン	上田夫妻
9/22～9/26	剣岳、奥大日岳	兵頭、吉村、他
9/30～11/6	マカルーBC～シェルパニコルトレッキング	佐々木、福山
10/3～11/13	ランタンヒマラヤ登山	武部、岡山県岳連
10/31～11/3	駒ヶ根ゴルフ・囲碁会 (兼山荘清掃)	広谷会長、他
11/6～11/7	奥秩父	片岡、伴
12/5～12/7	冬富士山	伴
1/9～1/10	冬富士山	伴、兵頭
1/23	六甲山	島川、他

小笹スキー・スクール

12・1・3月	於 夕張	大堀教頭、恒例メンバー
1・2月	於 梶池	兵頭、恒例メンバー

2011年度活動予定

実施月	行 き 先 等	参 加 者
4月・5月	近郊登山 関西・関東夫々	都度案内
6月	富士山	都度案内
7月	駒ヶ根山荘 草刈 外壁塗装 囲碁・ゴルフ会	雪線運営委員会協賛
8月	夏山合宿	現役山行に follow
(時期未定)	ランタンヒマラヤ/グルカルポ・リ登山	伴、佐々木、兵頭
11月	駒ヶ根ゴルフ・囲碁会 (兼山荘清掃)	恒例メンバー
12月	年末 富士山行	伴、兵頭

小笹スキー・スクール

1・2・3月	於 夕張	恒例メンバー
1・2・3月	於 梶池	恒例メンバー

平成23年度総会案内の通信欄より

- 山岳スキー競技日本選手権大会出走準備の為、参加できません。昨年は23位。もっと順位を上げたく思っています。(昭55年卒、片岡泰彦)
- ほぼ毎日、ボルダージムに通っていたらだいぶ上手くなりました。山は全く登っていません。しばらくは登らないでしょう。目標無くてやる気も出ず。今は山よりも壁が気になります。みんなで山に登るために色々努力していた頃が懐かしいです。もう戻ることはない、楽しかったあの頃、ですが。(平19年卒、藤井陽介)
- リハビリ中で参加できません。(昭32年卒、林日出雄)
- 「北朝鮮脱出記」を書庫に会長のご決断でお収め下さることになった由、感謝します。
(昭28年卒、内藤毅)
- 山岳写真の会「白い峰」を退会し、日本山岳写真協会北陸支部に入会しました。
(昭和35年卒、小林深)
- 現在療養中ですが、症状は安定しております。御盛会をお祈りします。
(昭33年卒、門田嘉弘)
- 84歳になりましたが歳なりに元気に過ごしています。(昭27年卒、谷口清士)
- 自己都合により勝手ながら欠席させていただきます。グルカルポ・リ登頂成功を祈念申し上げます。(昭36年卒、小笹孝)
- 雑用のため欠席します。又ローズマリ・サトクリフの物語を訪ねる旅、英国サセックスに行く予定です。(昭28年工卒、堺皓二)
- 結婚しました。(平20年卒、澤真平)
- 何時も欠席で申し訳ありません。諸兄によろしく。(昭30年卒、山本勝)
- 欠席続きで申し訳ないです。(昭30年卒、萩野昌宏)
- ランタンヒマールの美しさには本当に感動致しました。ありがとうございました。グルカルポ・リの報告楽しみにしております。(賛助会員、苑樹慶子)
- とうとううちの親父も先日亡くなりました。母一人残しての海外勤務となります。皆様も健康には御注意ください。(平4年卒、下田勝久)
- 盛会祈念致します。90周年パーティーには出席致したく。(昭41年卒、丸子隆志)
- 当日は寺院の行事があり、出席できません。グルカルポ・リの成功をお祈りいたします。
(昭47年卒、澤田宗博)

○間もなく 80 歳になります。齢相応に元気に過ごしています。永年欠席していますので
今年はと思いましたが、土曜日は簡単な仕事が 9～17 時までであり申し訳ありません。

メールで皆様のご活躍を拝読させています。(賛助会員、稲垣喜久雄)

○何やかやと元気にやっています。(昭 41 年商卒、藤村達夫)

○1 月には雪線を利用させて頂き、諏訪湖一周や戸倉山登山を楽しませて頂きました(総勢
8 名、5 泊) (賛助会員、鷺田ゆり子)

○グルカルポ・リご成功して無事故で! ガツンと一発!。(昭 54 年卒、武部秀夫)

○メタボ対策にランニングを始めました。(昭 60 年卒、小松稔)

○京都愛宕研究会の会合が市内で予定されて、小生が「この任意団体を NPO 法人化する
ことの是非」について調査結果を報告し、提案する予定です。ご盛会を祈念します。

(昭 30 年卒、高木健次)

○冬期、梅池高原で皆様とスキーを楽しんでおります。(賛助会員、柴原勝)

○3 月に独自でリフォームキャンペーンを実施し注文を受けたお客様宅の改装工事で 4 月
中旬まで忙しく、残念ながら参加できません、悪しからずご了承ください。11 月(山荘
イベント)には必ず参加致します。(昭 36 年卒、久保田淳三)

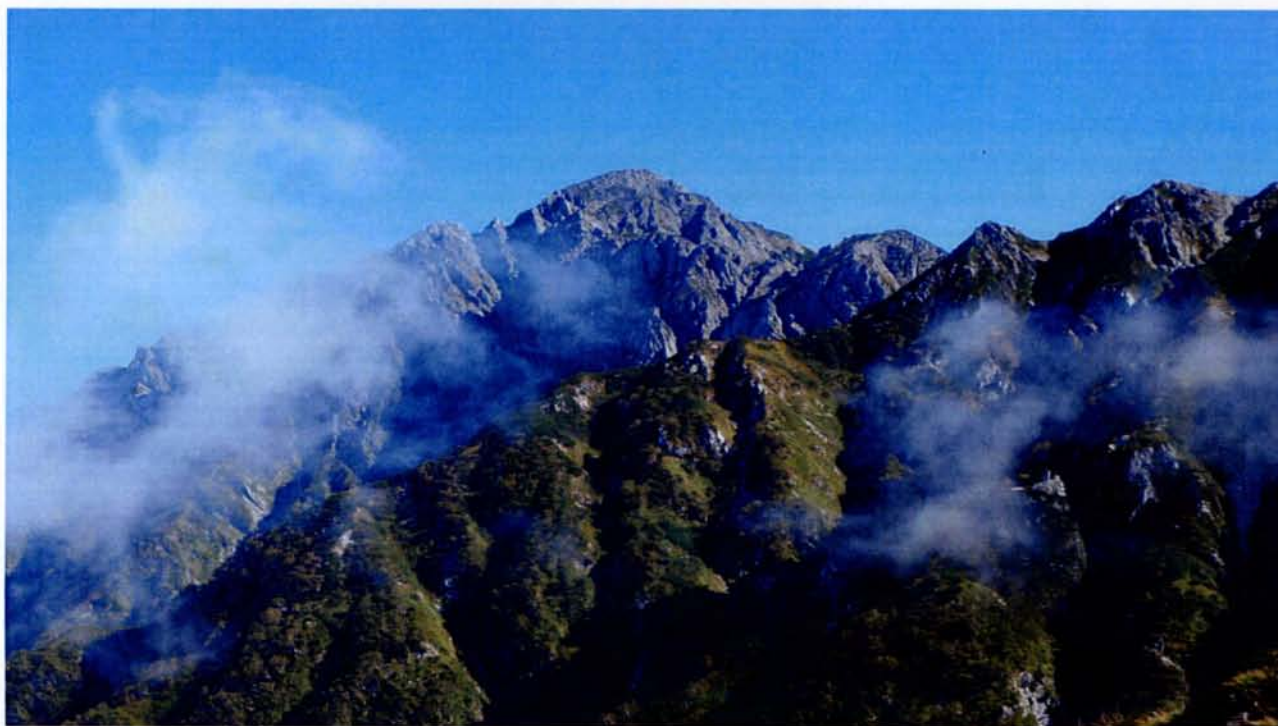
○大島民夫は昨年 11 月 21 日他界致しました。九十歳でした。生前のご厚情を感謝申し
上げます。今後の皆様のご活躍をお祈りいたします。(大島美保子(民夫の長女))

○当日、高校の同窓会と日時が重なり、OCUAC の方は欠席します。皆様によろしく。

(昭 34 年卒、藤本勇)

[会員の訃報通知]

上記「総会案内の返信」の通り、大島民夫氏(昭 17 学部卒)が昨年 11 月 21 日
に逝去されました。遅ればせながらご冥福をお祈り申し上げます。





<編集後記>

- ・本号では、久し振りに尾形達也さんからヨセミテ登攀の原稿を寄せて頂きました。次号以降も常連の方々だけでなく、新たな方々からの寄稿を期待します。宜しくお願い致します。
- ・4月に佐藤未亡人宅へ、故佐藤一良さんの蔵書を頂きにうかがいました。仕分け選別した結果、段ボール2箱になりました。他日、「ヒュッテ雪線」へ蔵置し、次号にて書籍名を紹介させて頂くことに致します。
- ・ところで、以前読んだ小説に「美味礼讃」（著者：海老沢泰久）があります。内容は辻静雄氏が門外漢の新聞記者から、結婚を機に、大阪あべの辻調理師専門学校を設立・発展させる物語です。その中の、米国経由でフランスへ、フランス料理探求の旅をする個所が今も強く印象に残っています。特に、ニューヨークで古書店の紹介を受けた際の、次の紹介者コメントです～
「コックの旦那さんが亡くなると、奥さんにとってはこういうものは紙クズ同然のものになるのよ。それで売りに出すの。（略）料理本を揃えるなら、新聞の死亡記事にいつも注意していることね」云々

振り返って、我が家にある雑多な書籍の始末について、悩ましく思った次第です。

（奥田 記）